

第3回 宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の保存・公開の在り方に関する有識者懇談会 議事概要

1 日時：平成30年5月8日（月）13：00－15：05

2 場所：宮内庁特別会議室

3 出席者 別紙のとおり

○議題1 増築・改修計画の見直しについて

事務局からの説明

（資料1）「現在案から一体化案へのイメージ」

前回懇談会では、既存棟、増築棟、収蔵庫棟の3つの建物を建設するという整備方針（案）について、委員より、作品移動の負担が大きい等のご指摘があったことを踏まえ、宮内庁内で再検討した。その結果、既存棟を撤去して、収蔵スペース約4,000㎡、展示室（1階3室）約1,300㎡を確保し、3棟案で分散していた諸機能を一体化した施設とするよう整備方針を変更したい。

また、エントランス、ショップなどのサービスエリアの充実なども検討しているほか、学芸機能を集約し、管理部門、館長室、貴賓室も確保し、地下を有効活用して空調機械室等の設備関係を設ける。総面積は約10,000㎡となり、東京藝術大学大学美術館よりやや大きいぐらいの規模になり、今夏までに外観を含め構想をまとめたい。

工事の進め方については、既存棟の隣接地の工事を進め、第Ⅰ期工事を完成させ、現在の既存棟の収蔵品や学芸・管理機能を移した後、第Ⅱ期工事で残る工事を完成させることを考えている。

上記に対する意見は以下の通り。

・展示室3室が一階に全てあることはよいこと。収蔵面積は広い方がよい。

・一体化工事を第Ⅰ期、第Ⅱ期と分けるとのことであるが、既存棟を第Ⅰ期工事中に撤去し全体工事を進めれば工事期間が短くなるのではないか。

事務局より；工事期間中の収蔵品保存場所の確保が困難であり、第Ⅰ期工事施工分収蔵庫・展示室の一部運用開始により、早期展示公開が可能となるため、工事を分けることとしている。

・長期工事期間中に部分的に展示公開を行うのであれば、来館者の安全の確保が重要である。

- ・工事予算について、建設途中で不足する、不足するからこれができないということでは大変困る。予算確保を確実にしていただき、工事変更が無いようにしていただきたい。
- ・美術館・博物館の社会的役割である学校教育との関わりについても今後考慮してほしい。
- ・皇居内のロケーションを生かし、来館者に心地よい空間を提供していただきたい。

○議題2 宮内庁三の丸尚蔵館の今後の保存・公開の在り方に関する提言（案）について

事務局からの説明

（資料2）宮内庁三の丸尚蔵館の今後の保存・公開の在り方に関する提言（案）

今回は提言（案）について皆様からご意見を伺い、取りまとめは次回（第4回有識者懇談会）としたい。

上記に対する意見は以下の通り。

「4. 今後の保存・公開の在り方について」

・作品を展示しながら常に開いている（開館している）ことが期待される。皇室を知っていただくための展示、あるいはトップクラスの名品を集めた展示など、性格を分けての運用もあると思う。

・提言（案）はまとまっていてよい。来館者へのサービスでは、内側と外側の空間があるが、建築デザインに意味があり、正倉院など、皇室にゆかりの深い建物を連想させる外観が必要であろう。内部の視点、来館者の視点と合わせて、様々な国から来館されることを踏まえ、国際的な視点も必要である。

・施設の有料化はどうするのか、来館者から一律に料金を徴収するのか、寄付を募るのかも検討して欲しい。

・入館料については今までと同様に取らず、入館料の代わりに用途目的を限定し寄付を募る方法もある。

・収蔵作品の動画、高精細画像はあるが、アーカイブ化がされていないので、今回の建築計画の機会に進めていただきたい。また、工芸品、古文書などのように展示では一部分しか見られない作品も、VRやAR技術により裏まで見ることができるので、順次検討・活用して欲しい。

・収蔵品の価値を分かりやすく示すことの検討については、陵墓、修学院離宮、桂離宮などにも影響が及ぶので、十分な議論と、国宝・重要文化財に値するものであるという説明が必要となる。

文化庁より；陵墓については、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産推薦に当たり、現に祭祀が行われていること、及び宮内庁でしっかり管理が行われていることを踏まえ、文化財の保存という観点から指定がなくとも問題がない、という立場で推薦した。宮内庁の方でも文化財の種類や状況に応じて、文化財保護制度を価値表示に有効活用する等、理由を整理した上で指定の対象を考えてもらえればいい。全てのものに指定が必要とは考えていない。

・ネーミング、組織の問題も含め知恵を絞る必要がある。英語表記では Imperial Collection が最もインパクトがある。運営では、正倉院や書陵部との共同での展覧会も検討が必要と思う。

・収蔵・公開・学芸機能の一体的整備と情報発信機能の強化については、しっかりまとめていただきたい。国民の理解を得て進めることを意識していただきたい。

事務局より；当初、増築にあたっては、地上構想であったが、いろいろ検討して行く中で、設計側からもアドバイスをいただき、安全性に欠けることは現在の技術面では無いとのことで、地下に機械室などを収めて有効活用する方針に変更した。

外観上は、景観に配慮し、スリムな形となるので、収蔵庫の高さをものすごく高くすることはできないが、高い部分と低い部分を組み合わせる工夫をしながら一部三階建とすることを考えている。

文化庁より；施設整備期間中における収蔵品の公開拡充の一環として、文化庁主催の「新たな国民のたから」展で、宮内庁からも出展していただいている。この他にも様々な美術館、博物館との連携による展示を通じ、三の丸尚蔵館への国民の皆様のご理解をいただけるような展示を整備中でも行っていくことが重要と考えている。

事務局より；予算面、運営体制の整備等まだ大きな課題がありますので、宮内庁として体制を整えてしっかりしたものになりたいと思う。

○次回日程等

次回は、7月の開催を考えている。

宮内庁三の丸尚蔵館収蔵品の保存・公開の在り方に関する有識者懇談会（第3回）

○出席者

【有識者委員】

高階 秀爾 大原美術館館長
宮田 亮平 文化庁長官
亀井 伸雄 東京文化財研究所長
南條 史生 森美術館館長
原田 一敏 東京藝術大学 名誉教授
ロバート キャンベル 国文学研究資料館 館長
伊藤 嘉章 九州国立博物館 副館長
田沢 裕賀 東京国立博物館 学芸研究部長
黒川 廣子 東京藝術大学 大学美術館教授

（年齢順）

【事務局】

宮内庁

【オブザーバー】

文化庁，観光庁